

第23回日韓中ジュニア交流競技会

報 告

期 日 平成27年8月22日（土）～29日（土）
開催地 韓国 济州特別自治道



<スタッフ>

総監督 佐藤 篤也（関東地区常任委員）

男子監督 岩佐 俊郎（東北地区常任委員）

女子監督 中村 聰利（浦和学院）

<選 手>

キャプテン 島袋 将（四日市工業） 小林 雅哉（東京学館浦安）

大島 立暉（相生学院） 楠原 悠介（岡山理大附）

キャプテン 向井マリア（城 南） リュー理沙マリー（沖縄尚学）

松田 美咲（浦 和 学 院） 大塚 芽生（京都外大西）



ソギポ市営コート



韓国戦



センターコート



TEAM JAPAN



「決定力」

第23回日韓中ジュニア交流競技会 総監督 佐藤 篤也

8月22日夕方、中部国際空港近くのホテルに集合して27年度の日韓中ジュニア交流競技会が始まった。今年のメンバーは大阪のインターハイや全日本ジュニアでも良い結果を残しているので、大いに期待した。しかもインターハイ開会式の折にデ杯の植田監督から「良い経験にするのではなく、勝ちに行って欲しい」とアドバイスを受けて皆の意気も上がらずにはいられない。



翌23日の午後、中部国際空港から釜山経由で済州島に着いたのは午後7時半。チャーター便に全員乗れなかったので仕方がないが4時間の長旅になってしまった。24日にはホテルからバスで1時間ほど走った所にあるソギボ市の試合会場のコートで練習。折しも台風15号の影響でインドアのコートでの練習となった。しかし、ボールを打てる事で選手たちは本来の姿を取り戻した。

25日、いよいよ試合が始まった。初戦は女子韓国戦。雨のためインドアコートを使って3面展開、試合形式も8ゲームプロセットとなった。No.2の松田が力強いショットが決まり8-3で先勝、続いてNo.3の向井も序盤のリードを生かして8-2で勝利、幸先の良いスタートであった。No.1のリュー理沙は少し動きが悪いなか粘ってプレーしたが、3-8で敗退。続くNo.4の大塚も悩みながらのプレーで4-8と敗れ勝敗はレスト30分を取った後のダブルスにかかった。ダブルスはリュー理沙と向井のペア。接戦であったが、ずっとゲームをリードされて終盤に追いつき8オールからタイブレーク。一進一退であったが、最後は力及ばず7-9で敗れた。

男子は女子の試合続き、2面展開で試合が始まった。No.2の島袋は良いテニスをするもののミスが目立ち5-8で敗退。No.1の小林は常に先行される展開、5-6から3ゲーム連取して逆転、8-5で勝利。1勝1敗で迎えたNo.3大島が劣勢から逆転し8-5で勝利した事が後々考えると大きかった。No.4楠原もねばり強いテニスを展開し接戦であったが、要所でのミスが響いて6-8で負け女子と同様にダブルス勝負となった。ダブルスは小林と島袋のペア。2人の動き

が良かった事と韓国チームのミスが目立ち、序盤4-1とリード。そのままリードを保って8-3で勝ち、日本チームに勝利をもたらした。2年連続男子監督の岩佐先生は外国チームに初勝利した



ことを大変喜んでいた。



26日大会第2日は台風一過の快晴のもと地元チームのチェジュ戦。女子は松田、向井がストレートで完勝。リュー理沙は1stセット6-2で王手をかけたものの2ndセットは1-5とリードを許す。しかしそこからゲームを支配し、タイブレークへ突入。タイブレークでは気持ちのこもったゲーム内容で7-5により勝負を決めた。No.4とダブルスはチェジュチームが棄権したため、5-0で勝利した。男子は島袋が1stセットを4-6で落とし、2ndも1-4とリードを許したが徐々に調子をあげ、5-4と巻き返す。ここで相手が背筋痛により棄権し、まず1勝。小林は1セットオールののち、10ポイントのタイブレーク。序盤に2-1とリードしたが、その後はチェジュの選手がペースを上げ、ハードヒットがことごとく決まり、10-5で敗退。大島は調子が悪いと言ひながらも6-3、6-1で完勝した。楠原も互角の戦いをし、タイブレークへ。僅かな差であるが10-8と勝利した。残ったダブルスも1セットオールのあと、タイブレークに。これも接戦であったが、残念なことに7-10で敗れた。今年の地元チームは大変強いという印象が残った。一報、女子の対戦では相手選手がけがをして一人出られなかったのが大変残念である。

27日の第3日は強敵中国戦である。男子 No.2 の島袋が本来の調子を取り戻しストロークを深いところに狙い要所要所で前に詰めてボレーを決める理想的な展開で2-0で先勝。No.3 大島は相手の強打に打ち負けて0-2で敗退。No.1 小林は1stセットを落としたものの2ndセットは相手が足を痛めたこともあり、6-0で取り戻しタイブレークへ。一進一退の展開であったが、11-9で制し2勝目。No.4 楠原は1stセットを取ったものの2ndセット、タイブレークを落として2勝2敗となり、ダブルスに勝敗がかかった。ダブルスはテニスの基本通り、サービスキープが続いたが、1stセットを1ブレイクダウンの3-6、2ndセットで2ブレイクされて1-5と追い詰められた、続く2ゲームはサービスキープが続いたが、小林のサービスゲームをブレイクされて0-2で敗退した。

女子はNo.2 松田がなすすべなくストレートで敗退、No.2 リュー理沙もファイナルまでもつれたもののタイブレークを8-10で落とし、敗退した。No.3 向井もファイナルまで頑張ったが、8-10で落としてしまう。No.4 大塚も粘り強くゲームを進めたがストレートで敗れ4敗となった。松田・大塚が初めてペアを組んだダブルスでは1セットオールの後タイブレークに。松田



の強打と大塙の粘り強さが功を奏し、10－8で今大会中国に対して初勝利を挙げた。

結果として男子は2勝1敗で総合第2位。女子は初日韓国戦に敗退したことが結果的に大きく1勝2敗で総合第3位に終わった。岩佐監督のマネージメント、中村監督の試合前のコンディショニング指導から試合中の徹底した指示など、今年のチーム力はたかさを結果につなげられなかつたことが大変残念である。両監督には心から感謝する。

大会を通じて感じたことは、日本、韓国、中国の選手の力の差が接近していることである。どの対戦もファイナルのスーパーไทブレークにかかる対戦が多く、簡単に勝敗がつかない。そんな中で勝敗を分けたのは精神力を集中力、そしてここ一番での「決定力の差」である。韓国、中国の選手たちは1stセット1stゲームからトップギアで試合をおこなう。2ndセットは日本選手も対応し取り戻すが、ファイナルタイブレークではリセットし、スーパーポイントを連続する姿が印象的であった。高い打点からコート深くに決まるショット、角度をつけたショットを連続できる技術には目を見張るものがあった。そしてサーブ力の差も決定的である。「攻撃は最大の防御である」とはまさにこのことと、改めて感じた。

そして最後に「日韓中ジュニア交流競技会」の意味合いである、文化交流を第2日チェジュ戦で再認識した。ダブルスの応援でスタンドに座っていたとき、審判員の女性とチェジュチームの男子が差し入れのお菓子を日本チームに分けてくれた。そこから少し対話が進んだのである。政情不安が報じられる中ではあるが、選手同士が屈託なく話す風景を見ていて、この子たちがこれからもスポーツを通じて交流を深めてくれれば良いなあと考えながら帰国の途についた。

第23回日韓中ジュニア交流競技会、選手派遣に関して、ご協力いただいた関係各位に改めて感謝し、筆を置きます。



第23回 日・韓・中ジュニア交流競技会テニス競技に参加して

男子監督 岩佐 敏郎（宮城県泉館山高等学校）

1 競技結果について

- 1) 対韓国戦 3-2で勝利 (8月25日)
シングルス2勝(小林雅哉・大島立暉)、ダブルス1勝(小林雅哉・島袋 将)
- 2) 対濟州戦 3-2で勝利 (8月26日)
シングルス3勝(島袋 将・大島立暉・楠原悠介)
- 3) 対中国戦 2-3で敗退 (8月27日)
シングルス2勝(小林雅哉・島袋 将)

昨年は歯が立たなかった韓国に勝利することができた。中国との対戦ではシングルス No. 4 の楠原がフルセットまで持ち込みあと一歩のところで惜敗となった。シングルスはどの対戦もストロークでは互角の打ち合いとなり、接戦に持ち込むことができた。特に中国戦でのシングルスは、小林が1セットダウンから驚異的な粘りを見せ逆転勝ち、島袋は深いボールを効果的に使いチャンスボールを確実に決めるという理想的な展開を見せた。随所に日本選手個人のレベルの高さを感じさせるものであった。

一方、ダブルスはサービス力の違いを痛感させられる結果となった。中国選手は2人とも190cm超の身長で、その高さから打ち下ろすスピード、そしてボールの重さに圧倒され、一度もブレークできずに終わってしまった。更に彼らはここ一番の勝負ポイントで確実に1st サービスを入れてくるのだ。今年度の錦織選手の躍進にはサービス力の向上が指摘されているが、今後日本のジュニア選手が外国人選手と対等に戦うためにも、サービス力の向上が課題となってくるだろう。

2 運営・競技日程について

(1) 今回の開催地は大韓民国の済州島であったが、通訳の方々を含めた現地スタッフの温かく優しい心遣いにより、異国の地にいるということを殆ど意識することもなく、試合に集中することができた。慣れない日本語に苦戦(?)しながらも、我々日本選手団のために朝早くから夜まで、甲斐甲斐しく対応してくれた。ここで改めて感謝を申し上げたい。選手たち一人ひとりも、韓国という国に対して友好的な印象を持ったものと確信している。

(2) 昨年度の岩手大会についても述べたことだが、せっかくレベルの高い大会を開催しているにもかかわらず、会場に一般の観客が来場することは稀であった。日程が平日では、なかなか一般の観客の来場は期待できない。何とか日程を週末に設定できないものだろうか。加えて広報不足もあり、国際大会の開催が、地域社会を含めて殆ど一部の関係者にしか周知されていない。今後は、主催者である日本体育協会等が音頭をとって、マスコミを巻き込んだ広報活動を切に希望するものである。

3 雑感 ~ワンデッシュな街~

宿泊先のホテルでの食事、会場での昼食、いずれも大きな1枚の皿に、用意されたご飯や数々のおかずを載せて食べる形式だった。食事はその国の文化であり、また最も基本的なものであろう。1枚の皿に何でも盛りつける、このことは済州市の街並みにも共通する(?)ものなのかもしれない。高級ブティックの隣に金物屋があり、その隣には海鮮焼きの店、そのまた隣には化粧品を扱う店、といった具合である。街並みを初めて見たときの違和感は、食事の時に何となく納得ができた。

済州(チュジエ)市の100km先には海峡を挟んで本土(朝鮮半島)があり、会場となった西帰浦(ソンポ)市の前には東シナ海が広がっている。バスで約1時間の距離を移動する日々であった。1週間という短い時間を共有したすべての人々に幸多からんことを願って……感謝。

第23回
日・韓・中ジュニア交流競技会を通じて



中村 聰利（浦和学院・埼玉）

初めに、この大会に参加する機会を与えてくれた日本体育協会、全国高体連テニス専門部そしてスタッフ・選手に感謝したい。

私は第23回日・韓・中ジュニア交流競技会に日本代表女子監督として参加した。監督決定後は、選手及び各学校顧問とコミュニケーションを図り、全国大会を通じて選手の特徴を理解するよう努めた。協力してくれた各顧問の先生方にこの場を借りて、感謝の気持ちを伝えたい。

普段は別の学校で活動している男女各選手の団結力を高めるために、①心構え ②時間 ③体調 ④私物の管理を伝えた。オンコートでは、①ウォーミングアップ ②プラクティスなどを選手と一緒に歩いていくことで統制を保ち、よりチームジャパンとしての意識を高めるように取り組み、皆それに応えてくれた。

戦力は、中国と済州No.4以外は日本選手も含め、全員ITFジュニアランキングポイントを取得している。特に中国の上位2名はこの競技会後、USオープンジュニアに出場する予定の実力者であった。日本選手と比較して一番差を感じることは、①身長が高い ②パワーがある ③身長とパワーを活かした武器（サーブ力とストローク力）を持っていることである。それに対抗するため、個々の武器で勝負できるようにベンチワークをした。

大会戦績

25日	大会初日	2勝3敗	韓国	シングルス2勝2敗	ダブルス1敗
26日	大会2日目	5勝0敗	済州（開催地チーム）	シングルス3勝	W02試合
27日	大会最終日	1勝4敗	中国	シングルス0勝4敗	ダブルス1勝

結果、韓国と中国に敗れた。韓国戦は台風の影響もありインドアでの試合で、全て8ゲームプロセットに。シングルス2勝2敗で迎えたダブルスは8-9(7)で惜敗。また、中国戦ではシングルスとダブルスの3試合がスーパータイブレークまでもつれ込み、全て2ポイント差で決着がつく試合となった。もし、韓国戦と中国戦でこの競った試合を全て勝っていたら、チームとして勝利を収めることができたため、監督として勝利に導けなかつたことが悔しい。しかし、緊張が高まるポイント間や、手に汗握るラリーとポイントの奪い合いが続く場面において、選手は代表としての誇りを胸に闘い抜いたことに間違いはない。このチームで戦えたことは私にとって財産である。

実力が拮抗する試合が多かった中で、韓国と中国が競り勝った要因の一つに、「スポーツ=勝ち負けのつくゲーム=真剣勝負=本気の遊び」があるように思えた。その遊び心を忘れずに、練習で培った疑いのない最高のショットを打ち込んだ結果が勝利に繋がったのだと思う。

最後に、短い期間だったがテニスを通じて様々な人達と出会い、考え方を学び、挑戦することで失敗や成功を経験でき、自己を成長させ視野を広げさせてもらった。また機会があれば是非参加したい。

そして、テニスを通じて出会った仲間をこれからも大切にし、お互いが成長して会えることを期待している。感謝합니다！ 謝謝！ ありがとう！

「日中韓ジュニア交流戦感想」



男子キャプテン
島袋 将（四日市工業・三重県）

まず初めに今回引率をしていただいた全国高体連テニス部常任委員の佐藤篤也先生、岩佐敏郎先生、浦和学院顧問の中村聰利先生ありがとうございました。先生方のおかげで思い出に残るような楽しい韓国遠征を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

今回自分は初めて日本代表として海外に行き、他国の人と戦う事ができたり他国の文化や食事などを触ることができ本当に良い経験をする事ができました。外人は日本人と違い体格が良くパワーもすごくあったり、テニスボールなども今まで使った事がないボールで試合をしたりとやりにくい状況ではあったのですがとても楽しくすることができました。でも大変だったことは言葉が通じなかつたり文字が読めない事でした。言葉が通じなかつたら自分が言いたい事など主張したい事が伝えれないしコミュニケーションも取りにくかったです。文字もハングル文字や英語ばかりで何が書いてあるかなどわからなかつたです。でも今回付き添いをしてくれた通訳さん達のおかげで苦労する事なくできたのはよかったですし、感謝したいです。食事の面でも正直最初は日本では見た事のないようなものだったり辛そうなものだったりと自分の口に合うかとても心配しましたがほとんどの料理を食べることができ良かつたと思います。本場のサムギョプサルやキムチなどはとても美味しかったです。でもこれから自分の目標を目指してやっていくにはこの様なことは当たり前にできてすぐにその場所の環境や施設に慣れたり、ある程度言葉が喋れなければ仲間とも交流ができないしテニス以外の場所で支障が出るという風に思いました。なのでこの韓国での1日1日はとても貴重な時間でありとても貴重な経験だったと思いました。

今回自分はキャプテンという役もやらさせていただきしっかりとその役割を果たす事ができました。この日中韓交流で過ごした日々はとても濃くとても質の高い毎日だったと思います。皆さんのお陰でとても充実した1週間を過ごす事ができました。ありがとうございました。

「日・韓・中ジュニア」



小林 雅哉（東京学館浦安・千葉県）

今回は「日・韓・中ジュニア交流会」に参加させて頂きました。私は韓国遠征は初めてですが、とても優しく接して下さり選手も日本語で話しかけて下さり緊張がほぐれました。

競技は韓国、中国の代表チーム、韓国の地元のチームを含めた3チームで総当たりをしました。初日の試合は韓国戦でいにくの雨でインドアでの試合でした。シングル1という緊張もり出だしは固くなり自分のプレーができませんでしたが、途中から自分のテニスをする事ができ、その試合で勝つことができました。ダブルスにも出させて頂き、出だしからスコアをはなし満足できる試合運びとなりとても嬉しかったです。

2日目は済州代表戦で、私はフルセットで負けてしまいました。粘り強く頑張りましたが、相手のパワーに押され先に単純なミスをしてしまい、悔いが残る試合となりました。しかしながら、チームに支えられ勝つことができました。

最終日は中国戦で、私の相手はITFランキング46位。どれだけ自分のテニスが通用するか楽しみでした。試合内容はフルセットで勝ちきる事ができ、本当に嬉しかったです。ダブルスでは相手のサーブに苦しめられ負けてしまいました。

日本チームの結果は2勝1敗で2位という結果でした。はじめてのチームメイトと団結して最後まで諦めず戦えたのでよかったです。

今回の遠征で韓国、中国のトップ選手たちと戦わせて頂き、体格の違いに驚かされ、サーブ力のすばらしさ、球の速さに感動するばかりでしたがこれから私はたりないものを身につけ、努力をし今後に生かしていきたいと思います。

最後になりましたが、大会関係者、引率して下さった先生方、地元の方々、チームの皆さん、貴重な経験をさせて頂き心から感謝します、ありがとうございました。

「日中韓対抗戦を終えて」



大島 立暉（相生学院・兵庫）

まずこの大会に参加させていただき、ありがとうございました。仲の良い友達と一緒に行けるということで日本代表として韓国に行くのをとても楽しみにしていました。空港では韓国人の通訳の方々が快く迎えてくれたのでとても嬉しかったです。

初日は雨だったのでインドアコートで練習をしました。最初はボールが飛んでいく感じがしていました。約2時間という短い時間の中で中村先生にアドバイスをもらい、集中して練習をしたので最初に感じていたこともしっかり調整することができました。

2日目から試合が始まり、初戦の相手は韓国でした。その次の日に地元のチェジュと試合をしました。この2戦で感じたことは、韓国人はミスが少ないということです。いつもより長くラリーが続き、毎ポイント息が上がりました。なので僕は相手がベースラインから下がっていたので、相手の時間を奪うように心がけてプレーをしました。浅いボールを見逃さず、前に入ってネットプレーでポイントを取ることができました。この2試合は僕が勝つことができ、チームとしても勝利することができました。

最終戦に中国と試合をしました。中国の選手はみんな身長が高く、どの選手もサービスゲームが強かったです。ブレイクすることができず、自分のサービスゲームにプレッシャーがかかっていました。サービスの重要性を改めて認識しました。もっと速くて、いいコースに打てるようになっていきたいなと思いました。中国に敗れ、結果2位でこの大会を終えました。優勝を狙っていたので2位という結果は悔しかったですが、今回学んだことをまた次に活かせるようにしていきたいです。

通訳の方々のお陰で韓国の文化を知ることや、体験することができました。海へ連れてって頂いたり楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

最後にこの大会の関係者、引率してくださった先生方、本当にありがとうございました。

「日韓中ジュニア交流競技会を終えて」



楠原 悠介（岡山理大附属・岡山）

今回「第23回日韓中ジュニア交流競技会」に参加させて頂きありがとうございました。僕は、大成高校の恒松君が怪我で辞退をしたので繰り上がりで選ばれ、最初は自分が代表で良いのか不安で一杯でしたが、メンバーのみんなや先生方に良くして頂いたので楽しく過ごすことができました。

1日目は移動日で、次の日は、試合会場に入り練習をしました。全国トップレベルのメンバーと練習をしたことがないので、緊張してあまりいつも通りのプレーが出来ませんでしたが、自分にとっては良い刺激になりました。

競技会の初日、韓国戦では雨の影響により室内コートで8ゲームに変更となりました。初めて海外選手として感じたことは、特にサービスが速く、ストロークもほとんどのボールを強打してきて、どこからでもエースを狙ってくるような攻めるプレースタイルで驚きました。対戦している中で自分は冷静に落ち着いて、弱点を見つけるなど状況を判断してプレーしなければならないことを学びました。翌日の第2戦は、地元のチェジュ代表との試合でした。相手は大きな選手でしたが、韓国戦の反省を生かして、前半から冷静にプレーすることを意識し、チャンスには自分から攻めることができ勝利することができました。最終日に対戦した中国の選手は190センチを超える長身の選手で、サービスの威力は今まで経験したことないくらい強力でした。試合中どうしたらリターンゲームが取れるのか考えてみても、相手のコートに返すのが精一杯で、そこからラリー戦になったとしてもパワーに圧倒されてしまうことが多かったです。でも、まず相手より先にミスをしないことを心掛けて粘り強く打ち返して行くことでポイントを取ることができました。しかし接戦に持ち込みましたが、タイブレークでは攻め込まれ敗れました。最終的に日本チームの結果は2位でした。負けた試合では悔しい思いもしましたが、逆に接戦まで持ち込み勝負ができたことで自信になりました。

今回の遠征で、韓国と中国の高校生たちとテニスを通じて交流ができたことは、これから的人生の中でもとても役立つことだったと思います。貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

最後になりましたが、大会と一緒に戦った代表メンバーのみんな、そして日本体育協会、高体連テニス協会、通訳など関係者の方々、引率して頂いた佐藤総監督、男子岩佐監督、女子中村監督、本当にありがとうございました。

「1ポイントの重み」



女子キャプテン
向井 マリア（城南学園・大阪）

まず始めに、引率して頂いた佐藤先生、岩佐先生、中村先生ありがとうございました。私は今まで日本代表として戦ったことがなかったので、この日韓中ジュニア交流会のメンバーに選考された時はとても嬉しかったです。

今回の遠征は、初日が前泊で二日目が移動だけという、二日間テニスが出来ないスケジュールだったのですが、出発の日の朝、中村先生にトレーニング指導を一時間程して頂き、そのおかげで韓国に着いての練習では始めから体の重さをここまで感じることなく、充実した練習をすることが出来ました。

8月25日、初戦は韓国でした。雨天の為、8ゲームでのマッチでした。シングルス1～4を行った後でダブルスという進行です。私はシングルス3とダブルスに出場しました。シングルスは落ち着いてプレーすることができ、終始相手にリードを許すことなく勝つことが出来ました。ダブルスはリュー理沙マリーさんとのペアリングで、実践練習もしていなくて試合が始まる時は少し不安でしたが、試合が始まると息を合わせて戦うことが出来ました。2-2でダブルスがまわってきて、私達のダブルスが勝利すれば日本チームの勝ちだったのですが、タイブレークの7-9で負けてしまうという結果に終わり、とても悔しくて、残りの済州戦、中国戦は絶対勝ちたいと思いました。この日は私の18歳の誕生日だったので、引率の先生方にケーキを買って頂き、テニスのメンバーだけでなく、様々な競技の方達に祝ってもらい、最高の誕生日になりました。

8月26日は済州戦で、不戦勝も含めて5-0で勝利することができました。

8月27日は中国戦でした。中国は2勝0敗と、今まで一番の強敵でしたが、勝ったら日本が1位になるという話を聞いて、よりいっそう勝ちたいという気持ちが強くなりました。結果は1-4で負けてしまったのですが、シングルス1と3がどちらもファイナルスーパーイブレーク8-10というスコアで、韓国戦に続いてまた2ポイント差で負けてしまい、この大会を通じて1ポイントの重みを実感しました。

8月28日は早朝からオリンピックデーで、4kmウォーキングをした後に、ユネスコ世界自然遺産のソンサンイルチュルボンという所に行き、登山をしました。そして午後はフレンドシップ交流会があり、Halla体育館で日韓中ジュニア交流会に出場している選手全員で人文字を作りました。その後、スーパーに連れて行って頂いて、お土産などを買いました。

そして8月29日に帰国しました。

今回の遠征を通じて、メンバーのみんなと仲良くなることができました。そしてこのメンバーで戦えたことをとても誇りに思います。この経験を生かして、今後に生かしていきたいです。

最後になりましたが、今大会をサポートして下さった大会関係者、高体連テニス専門部、済州でお世話になったバスの運転手さん、通訳さん、そして、引率してくださった先生方、一緒に戦ってくれた選手の方々、本当にありがとうございました。

「攻める力」



リュー理沙マリー（沖縄尚学・沖縄）

今回、日中韓交流協議会に参加させてもらい、日本代表として試合をしました。私は去年に続き2回目の日中韓交流試合で、今年は韓国での開催だったので少し不安もありました。

着いてから最初の対戦は韓国で、私はシングルス1とダブルスに出場しました。結果はどちらも負けてしまい、総合で2-3で負けてしました。

次の日の地元チェジュ戦では、昨日の試合の反省を活かし、接戦でしたがシングルスで勝利することができました。相手の棄権でダブルスとシングルス4はありませんでしたが、全勝でした。最終戦は中国で、シングルスのみの出場でした。相手の選手はビッグサーバーで、ストローク力もすごかったのですが、ファーストセットから手応えを感じていて、セカンドセットは相手のミスを誘い取ることができました。しかしつァイナルタイブレークに入ると相手の攻めに押されて、大きくポイントを離され、そこからなんとか巻き返して1ポイント差まできましたが、8-10で敗れてしまいました。結果は1-4でした。

最終的に日本は3位という結果に終わり、悔しい思いをしました。中国の競った場面での攻めに受けの一方になってしまい、そこが日本との差だったのだと痛感しました。

この3試合での教訓は、海外に行くとやはり攻める力が劣っていると感じたので、これからは普段の練習でこの時の経験を思い出し、海外の選手のプレーを意識して取り組んでいきたいです。交流試合は終了しましたが、翌日から観光という形で朝のウォーキングから始まり、軽い登山もしました。チェジュ島はすごく綺麗な場所で南国のような雰囲気が心地良い所でした。ホテルでの料理も美味しかったし、何より韓国は人柄がみんな優しかったです。テニスの選手団の通訳をしてくださった方も、難しい日本語を頑張って話してくれていました。このメンバーで来れて良かったです。引率の先生方に感謝して、ここで経験できたことを今後の人生に活かていきたいです

「第23回
日・韓・中ジュニア交流競技会を終えて」



松田 美咲（浦和学院・埼玉）

まず初めに、日・韓・中ジュニア交流競技会に参加させていただきありがとうございました。初めて日本代表になれて嬉しかった反面、他の人に迷惑をかけてしまうのではないかという不安もありましたが、「代表になったからには、自分のやるべきことをしっかりとやり抜こう」と決め、取り組みました。

1日目の韓国との対戦では、攻撃的な自分のテニスができ勝利することができました。

2日目の地元チェジュとの対戦では、相手のコースを突いてくるサーブとネットプレーの多さに少し押されてしまいましたが、受け身にならないようラリーをすることを考えて勝つことができました。

3日目の中国との対戦では、相手の身長が高く、サーブやストロークのパワーが違い、なかなか思うようにプレーをさせてもらうことができませんでした。自分のテニスができずに試合が終わってしまい、韓国に来て初めての敗戦をし、悔しい思いをしました。中国戦では、ダブルスにも出場させてもらいました。ダブルスでもストロークのパワーは変わらず、ストレートアタックをたくさん打たれ、パワーで押されるゲーム展開になってしまいましたが、逃げずに向かっていくことで相手の攻撃を封じて勝ちきることができました。

この遠征で、韓国と中国の選手はミスをしても堂々としていて、失敗を引きずらず、気持ちの切り替えが早いということを感じました。

私も気持ちの切り替えを早くし、新たな課題であるネットプレーや辛抱強くラリーをしていく事、そして、どんなに相手のサーブが良くてもリターンをしっかり返せるように技術を強化することで、堂々とした試合ができるようになっていきたいです。

最後にこの大会は、自分にとって素晴らしい経験になりました。高体連の方々や先生方、この大会の関係者の皆さんに心から感謝しています。これからも、この気持ちを忘れず頑張ります。ありがとうございました。

「日中韓ジュニア競技会を終えて」



大塚芽生（京都外大西・京都）

初めに、日中韓ジュニア交流会メンバーに選考して頂き、多くのことを経験する機会を与えていただいたことに感謝いたします。

今回は開催地が韓国の済州島ということで、前泊を含め一週間の遠征となりました。監督とは初対面で、これまであまり話をしたことのない選手も何人かいて、初日の集合場所に行くときは少し不安でした。ですが、監督・メンバーとも次第に親しくなり、毎日が楽しく充実した時間を過ごすことが出来ました。一週間という長い時間を全国のトップ選手と一緒に過ごせたことは、自分にとって多くの発見と刺激をもらえた貴重な経験になりました。

海外の選手との対戦では、自分の足りない部分がいくつも見つかりました。特に攻撃力という部分においては、大きな差を感じました。ラリーは出来ても、自分で決めきることが出来ないというのが今の自分の実力でした。中国の選手は体格が大きく、そのボールの重さに驚きました。返すことで精一杯になってしまいラリーも多くありました。相手より先に攻めて、展開していくことが自分と体格のある海外選手との戦いで必要なことだと思いました。また、仲間の応援をしながら、それぞれの選手のいいところをたくさん見つけることが出来ました。カウンターショットや緩急などは自分も学んでいきたいと思いました。そして一番最後に出場した中国戦のダブルスでは、いつもは消極的になってしまいリターンやボレーをしっかりと打てて、勝つことが出来ました。それはペアの松田さんの攻撃的な姿勢と中村先生の的確なアドバイスのお陰だったと思います。

日本代表として戦うことは初めてで、このメンバーで戦うことも最初で最後ですが、今回の遠征のことを今後の自分のテニスの糧にして頑張っていきたいと思います。そして、学校の仲間や自分を支えてくれている人達に、この経験を伝えたいと思います。

最後になりましたが、本大会の参加にあたりサポートして下さった、日本体育協会、高体連テニス専門部の皆様、済州島の方々、その他関係者の皆様と、引率して下さった佐藤先生、岩佐先生、中村先生、そして一緒に戦った7人のメンバーに大変感謝しています。本当にありがとうございました！

8月25日(火)

男子	日本	3 – 2	韓国
第1シングル	小林 雅哉	8 5	Yoon Il Sang
第2シングル	島袋 将	6 8	Shin San Hui
第3シングル	大島 立暉	8 5	Eom Gwan Yong
第4シングル	楠原 悠介	6 8	Kim Jae Woo
ダブルス	小林 雅哉 島袋 将	8 4	Yoon Il Sang Shin San Hui

女子	日本	2 – 3	韓国
第1シングル	リュー 理沙 マリー	3 8	Park Su Bin
第2シングル	松田 美咲	8 3	Bae Do Hee
第3シングル	向井 マリア	8 2	Park Eun Yeong
第4シングル	大塚 芽生	4 8	Ahn You Jin
ダブルス	リュー 理沙 マリー 向井 マリア	8 9(7)	Bae Do Hee Ahn You Jin

8月26日(水)

男子	日本	3 – 2	濟州
第1シングル	小林 雅哉	1(36,63,5-10)2	Im Seong Taek
第2シングル	島袋 将	2(46,54,Ret)0	Lee Min Hyun
第3シングル	大島 立暉	2(63,61)0	Han Seong Young
第4シングル	楠原 悠介	2(64,36,10-7)1	Sim Seong Bin
ダブルス	大島 立暉 楠原 悠介	1(46,63,7-10)2	Im Seong Taek Han Seong Young

女子	日本	5 – 0	濟州
第1シングル	リュー 理沙 マリー	2(62,76(5))0	Cheon Su Yeon
第2シングル	松田 美咲	2(76(4),63)0	Lim Eun Ji
第3シングル	向井 マリア	2(63,61)0	Nor Ho Yeon
第4シングル	大塚 芽生	○-×WO	
ダブルス	松田 美咲 大塚 芽生	○-×WO	Cheon Su Yeon Lim Eun Ji

8月27日(木)

男子	日本	2 – 3	中国
第1シングル	小林 雅哉	2 (57,60,11-9) 1	Wu Yi Bing
第2シングル	島袋 将	2 (76(7),63) 0	Wu Hao Zou
第3シングル	大島 立暉	0 (36,36) 2	Lu Cheng Ze
第4シングル	楠原 悠介	1 (63,36,7-10) 2	Te Ri Qe Le
ダブルス	小林 雅哉 島袋 将	0 (36,36) 2	Lu Cheng Ze Te Ri Qe Le

女子	日本	1 – 4	中国
第1シングル	リュー 理沙 マリー	1 (36,63,8-10) 2	Yuan Yue
第2シングル	松田 美咲	0 (06,26) 2	Liu Yami
第3シングル	向井 マリア	1 (46,63,8-10) 2	Gao Xinyu
第4シングル	大塚 芽生	0 (57,36) 2	Ye Qiuye
ダブルス	松田 美咲 大塚 芽生	2 (63,06,10-8) 1	Yuan Yue Ye Qiuye